

2017年6月4日(日)

説教:「神と共に歩む」

聖書:ミカ書6:8

「人よ、何が善であり／主が何を前にお求めておられるかは／前にお告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである。」この言葉にはどのような背景があるのか。ここはイスラエルの民が「疲れている」状況がある。神に礼拝を奉げること疲れ、神への信仰が見えなくなっている民の姿がある。その要因には、これまで神がくださった恵みを忘れ、歴史を覚えないことが挙げられる。それは語られた神の言葉を学ばず、この世の歴史を学ばないことにある。

このミカ書6章8節の「正義」とか、「愛する」とか、「へりくだる」という三つのことを行うのは容易ではない。この中の一つでも極めるのはかなり難しい。人は弱さを持つもの。ここは、私たちが「正義を行うこと、慈しみを愛すること、へりくだること」が出来ると言っているのではない。主なる神ご自身が「正義を行う」方、「慈しみを愛する」方、「へりくだる」方であり、その神が弱さを持つ私たちと共に歩んでくださるということ。その神が共に歩んでくださるのだから、私たちも「正義を行うこと、慈しみを愛すること、へりくだること」に努めて行くことが、自ずと導かれていくということではないかと思う。そしてこのミカ書は常に教会のあり方を照らし、教会の方針を指し示す御言葉である。

今日は「ペンテコステ(聖霊降臨日)」。教会の誕生を覚える日である。教会は聖霊が教会に仕える一人ひとりに降り、人を通して教会が建て上げられ各地に広がって行く。教会は、一人の人、特定の特別な選ばれた者にだけ、牧師だけに聖霊が降るということではない。一人ひとりの上に聖霊はとどまるのである。そして教会には、言葉の違い、国の違い、皮膚の色、男、女、年齢の違い、障害があてもなくても、様々な違いはあっても、教会は神によって一つにされるといふこと。逆に教会は、違いのある者が集められているのか、違いのある者を排除していないか、違いのある者を寄せ付けない壁はないかと逆に問われるものである。

「へりくだって神と共に歩む」教会づくりをご一緒に担って頂けたらと願う。(神谷)